

CONTENTS

[1000字エッセイ]

アメリカの大学生と就職 トーマス・ネビンス ————— 2

ストイック+120%全力投球 安原ゆかり ————— 3

【特集】地域変革の動き

地域の就業構造変化と地域雇用開発 八幡成美 ——— 4

動き出した地方拠点法 横道清孝 ————— 8

公共投資、社会資本整備と地域雇用の視点
浅尾 裕 ————— 10

ビトの動きからみた地域 中村良三 ————— 14

北九州市の地域雇用開発の現状 木下伸生 ————— 16

グローバル化と地域工業振興策のビジョン
佐野 哲 ————— 18アメリカにおける地域雇用開発
〈日本からみた第3の波について〉 フィリップ・シャピラ ——— 20

[JILインタビュー]

いい仕事をしている人は、メリハリが効いている
吉田久美子 ————— 24国際労働力移動のフロンティア
〈外国人労働者問題を考える〉 山越 徳 ————— 26

高齢化社会における遺産の役割 駒村康平 ————— 30

カナダ・アメリカ訪問記 堀 春彦 ————— 34

USAメリーランド滞在記
〈フラグメント編(上)〉 松本真作 ————— 36

[とびつくす]

1993年労使関係研究会議 ————— 40

平成5年度研究計画について ————— 42

[世界の研究所めぐり]

CEREQ ————— 45

●資料センターだより ————— 46

●平成5年度雇用職業研究会の開催について ————— 47

●EVENTS INDEX ————— 48

JILリサーチ

1993夏/NO.14

アメリカの大学生と就職

トーマス・ネビンス

先日アメリカの国内線で若者と隣り合わせた。若者はロースクールの学生で、公立法律事務所の就職面接を受け、卒業式に出席するために帰る途中だった。彼は大多数のアメリカの大学生と同様に、学位取得のために一生懸命勉強し、学費を稼ぐためにアルバイトもしてきた。

アメリカ基準局の報告によれば、2005年まで毎年平均132万人が大学を卒業し、91万4,000の職を奪い合うことになる。言い換えれば10人のうち7人しか就職できないということだ。

アメリカの学生は将来のキャリアのためにどのような準備をしているのだろうか。そのプロセスは学生が大学を選択するときから始まる。まず何よりも、若者はその大学の学問的評判を考える。費用の点も重要な要因である。学生が両親に費用を全部出してもらおうと期待することは稀である。授業料、寮費、食費、教科書代諸々合わせて、私立大学で4年間に掛かる費用が平均10万ドルに達するといわれる今日では学生の負担はかなりの額になる。

大学の財務職員協会によれば、大学の費用の一部ないし全部を稼いでいる学生は86%に上っている。それは学生の自立心の現れであるだけでなく、他にも理由がある。学費を自分で出し

たことを履歴書に書くことはよくあることで、就職の際高く評価されることである。そして、彼等が働くのは就職市場に足掛かりを得るためでもある。アメリカの学生は専攻分野や将来のキャリアと関連した仕事の経験を積み、就職の際に経験として認めてもらえるような仕事を選ぶ。大学側がインターンシップやコーオプと呼ばれるプログラムを提供して、専攻分野と関連した就業経験を学生に与える制度も発達している。

アメリカの大学学長が入学式のスピーチでよく言うことは、「君の右と左の人をご覧ください。このうち卒業できるのは1人だけです。」ということが示すように学生は非常に厳しい学問の世界で懸命に勉強しなければならない。しかも卒業を前に、益々競争の激しくなった就職市場に直面しているのである。しかしこうした厳しい状況の中で、大半の学生は飛行機で隣り合わせたロースクールの学生の様に、仕事と生活の目標もっている。そして私の目には、この若者が楽天的で、チャレンジ精神旺盛で、羨ましいほど生気にあふれて見えた。

〔株式会社TMT代表取締役社長〕